

中間報告書（平成 23 年度）

提出者 田窪行則

提出年月日 2012 年 3 月 28 日

【プロジェクト名】

和文 南琉球の言語と文化の記録と保存

英文 Documentation and preservation of the languages and cultures of Southern Ryukyu

【メンバー構成】

研究代表者 田窪行則

幹事 元木 環 京都大学学術情報メディアセンター助教 電子博物館コンテンツ作成統括、写真担当
メンバー

河原 達也 京都大学学術情報メディアセンター教授 電子博物館プログラム統括

岩崎勝一 UCLA 教授 池間方言、言語生活

大野 剛 アルバータ大学 准教授 池間方言、映像担当、言語生活

Davis, Chris 京都大学、JSPS 外国人特別研究員 宮良方言 書き起こし

下地理則 群馬県立女子大学 准教授 伊良部方言 書き起こし

山田真寛 京都大学、JSPS 特別研究員 与那国方言 書き起こし

林 由華 京都大学文学研究科 GCOE 研究員 池間方言、書き起こし

平井芽阿里 京都大学文学研究科 GCOE 研究員 儀礼研究、宗教生活

花城千枝子 ひよどり保育園 園長 童話制作

仲間博之 宮古高校 前校長 コーディネータ 池間古歌謡研究

白田理人 京都大学文学研究科 M2 喜界方言、書き起こし

永田奈緒美 京都大学学術情報メディアセンター教務補佐員 童話制作

上田寛人 京都大学学術情報メディアセンター教務補佐員 電子博物館制作

岩倉正司 京都大学学術情報メディアセンター教務補佐員 電子博物館コンテンツ作成

【ねらいと目的】（600 字程度）

本研究会は、消滅の危機にある琉球、とくに宮古島を中心とした南琉球の言語と儀礼を研究し、同時に、それらを映像・音声として記録し、研究者同士、また現地の人たちと共有するための電子的空間を構築することが目的である。この電子空間は博物館として機能し、展示空間と格納空間を持つ。収集された映像・音声は格納空間から展示空間に移され、展示のために加工されることで、情報価値を増していく。展示されるコンテンツとしては自然談話、儀礼だけでなく、方言で書かれた童話絵本、方言講義、芝居などの言語作品も含む。

【活動の記録】

9月4日－11日 宮古島にて方言調査 田窪、林、白田

12月24－30日 宮古島にて方言調査、絵本の計画打ち合わせ 元木、田窪、花城、仲間

2月8－11日 宮古島にて方言絵本の校正。 元木、田窪、花城、仲間

【成果の概要】（800字程度）

H23年度 昨年度作成したひよどり保育園園長花城千枝子氏創作による方言による読み聞かせ絵本の誤植、方言形の間違い等を修正し、改訂版を出版した。本年度は、同氏の方言絵本である『つふあ すうだてい じゃんぬ はなす（こそだてじゅごんのはなし）』を出版可能な形にし、花城氏の朗読録音を行って、CD付きの絵本として出版した。予算の都合で、読み聞かせ用の冊子のみを作成し、絵本の方は準備作業のみを行って、印刷はできなかなかった。前作と同じく、子、親、祖父母の三世代間（あるいは曾祖父母を含めた四世代）の言語の伝承を助ける目的で創作されたものである。今回も前宮古高校校長仲間博之氏とすべての文を検討し、非常に自然な池間方言による物語を完成させた。

これまでコンテンツ作成室でしか更新できなかった電子博物館を研究者自身が更新できるように、コンテンツ作成室においてワードプレスで書き直す作業を行った。これにより、博物館の建物を異なる方言を格納できるようになる。

【通信欄】

(事務局記入欄)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	(千円)	実績額

池間西原方言言語調査 前宮古高校校長仲間博之さんと



方言創作童話校正作業 前宮古高校校長仲間博之さんと



方言創作童話

作者 花城千枝子さんの朗読録音

